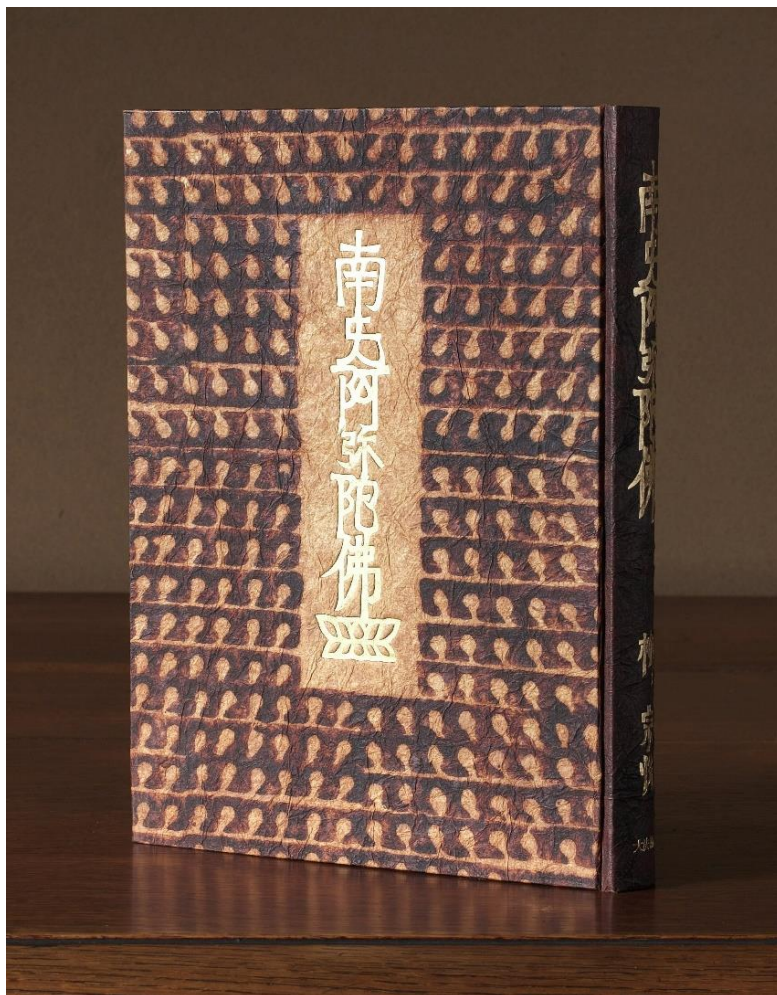


2025.9.19



鈴木繁男装幀 柳宗悦『南无阿弥陀佛』（特装本） 1955年 21.9×16.1cm 日本民藝館蔵

鈴木繁男 手と眼の創作

2025年10月11日[土]－2026年1月12日[月・祝]

展覧会名：	すずきしげお て め そうさく 鈴木繁男 手と眼の創作
会期：	2025年10月11日[土]－2026年1月12日[月・祝]
開館時間：	午前9時30分－午後5時
休館日：	月曜日[10月13日、11月3日、24日、1月12日は開館]、 12月28日[日]－1月4日[日]
主催：	豊田市民芸館
共催：	中日新聞社
出品協力：	日本民藝館、瀬戸民藝館
会場：	第1・第2民芸館
観覧料：	一般800円／高校生・大学生600円／中学生以下無料 ※観覧料の減免、割引等については当館ウェブサイトをご確認ください。

展示概要：	金時絵師の次男として静岡市に生まれた鈴木繁男（1914－2003）は、幼少期から漆芸を仕込まれ模様を生む能力を育んでいきました。その非凡な才能をいち早く認めた柳宗悦は唯一の内弟子として1935年に鈴木を入門させます。柳から工芸や直観についての厳しい指導を受け、開館前の日本民藝館陳列ケースや展示台への拭漆塗りなどを任されました。鈴木の仕事が初めて衆目を集めたのは雑誌『工藝』の装幀で、和紙に漆で描かれたその表紙は、多くの民藝関係者や読者を驚かせました。 陶磁器、装幀、漆絵など多岐にわたる鈴木作品の特質は、筆や型を用いて施された模様の独自性にあります。古今の工芸品から滋養分を受け取り、それを十分に咀嚼して生み出した品格ある模様は、今も燦然たる光彩を放っています。また一方、柳に鍛えられた眼による創作も忘れてはなりません。鈴木が蒐集した古作の優品は日本民藝館のコレクションにも見る事ができ、その中で確かな位置を占めています。本展は日本民藝館（東京）で開催された「鈴木繁男 手と眼の創作」の巡回展として開催します。これまで認知されることの少なかった工芸家・鈴木繁男の手と眼による創作を展覧し、約半世紀にわたる多彩な仕事を紹介します。
-------	---

展示点数：	約200点（予定）
-------	-----------

関連事業：

①記念講演会「鈴木繁男先生の思い出」

日時：11月1日[土] 午後2時－3時30分

講師：柴田雅章（作陶家）

②トーク「民藝 わからなくて 愛おしい」

日時：10月18日[土] 午後2時－3時30分

登壇：朝倉圭一（やわい屋店主）

①、②いずれも

会場：豊田市民芸館（第3民芸館） 聴講：無料（会期中の観覧券の提示必要）

定員：先着50名程度（事前申込不要）

③やわい屋ポップアップストア

会期中、第2民芸館に飛騨高山の工芸店 やわい屋が出店します。

④ギャラリートーク（学芸員による展示解説）

日時：11月15日[土]、12月7日[日] いずれも午後2時から1時間程度

会場：第1民芸館集合 聴講：無料（当日の観覧券の提示必要）

お問合せ：

豊田市民芸館

〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町波岩86-100

URL：https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/

e-mail：mingei@city.toyota.aichi.jp

Tel：0565-45-4158

Fax：0565-47-4007

・展覧会に関すること 学芸担当：北谷

・掲載、広報画像のご依頼 庶務担当：佐敷

「鈴木繁男 手と眼の創作」 広報用画像について

画像資料をご希望の方は以下を記入のうえ、Faxまたはe-mailでお送りください。

Fax: 0565-47-4007 e-mail: mingei@city.toyota.aichi.jp

お名前

ご所属

様

Tel

Fax

e-mail

必要な画像の番号

掲載紙／メディア名

発売、放送予定日（雑誌の場合は〇月号）

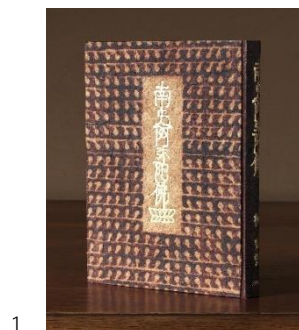
必要な鑑賞券枚数（最大5組10名分）＊

鑑賞券の送付先＊

〒

枚

＊読者プレゼントのため等、希望する場合のみご記入ください。



1



2



3



4



5



6



7



8

1. 鈴木繁男装幀 柳宗悦『南无阿弥陀佛』（特装本） 1955年 21.9×16.1cm 日本民藝館蔵
2. 鈴木繁男作 鉄印判手陶板 磐田窯 1960-1964年 2.0×24.5cm 日本民藝館蔵
3. 鈴木繁男作 久能団扇 1950年頃 47.0×25.5×1.3cm 日本民藝館蔵
4. 鈴木繁男作 呉州打掛皿 砥部 1955-1959年 4.6×32.0cm 日本民藝館蔵
5. 鈴木繁男作 色絵草花文皿 素地・壺屋 絵付・鈴木繁男（蒲田・芹沢工房） 1939年 8.6×32.2cm 日本民藝館蔵
6. 鈴木繁男蒐集 灰釉蓮弁文壺 渥美 平安時代末期 43.5×41.0cm 日本民藝館蔵
7. 鈴木繁男蒐集 厨子 江戸時代 30.0×18.0×13.5cm 日本民藝館蔵
8. 鈴木繁男装幀 『工藝』第100号（『工藝』屏風・部分） 1939年 23.0×15.0cm 日本民藝館蔵

画像の使用には以下の点にご注意ください。

- ・作品写真の文字のせはご遠慮いただき、キャプションを表記してください。
- ・ご紹介いただく場合は、情報確認のためお手数ですがゲラ刷り等をお送りください。
- ・情報掲載後、情報公開後の報告をお願いします。
- ・本展の紹介でのご使用後は、各メディアの責任のもと画像データを削除破棄してください。

豊田市民芸館使用欄

画像提供の依頼日

年 月 日

☐画像送付

☐校正

☐修正

☐配信・配本